

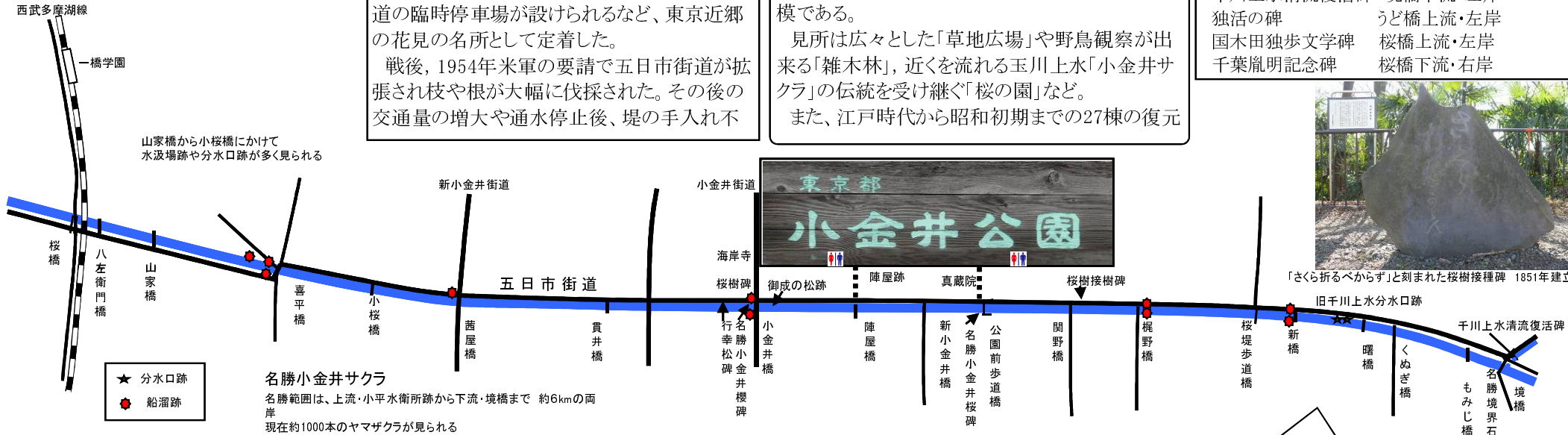
散歩ガイドマップ 上流部

一橋学園駅から境橋

一橋駅から境橋まで約5.8キロ
境橋から三鷹駅まで約2.3キロ

喜平橋から境橋までの五日市街道には中央線、西武線各駅へのバス停あり

このコースは途中トイレが少ないので注意
(小金井公園、桜橋脇、西久保公園内にあり)



小金井サクラ

1737年に武蔵野新田世話役・川崎平右衛門定孝の命により大和・吉野山、常陸・桜川等から多品種のヤマザクラの苗を取り寄せ、小金井橋を中心に兩岸の上下6キロにわたり、沿岸の村人に堤に植えさせた。

江戸時代から花見の名所となっていたが、1916年東大の三好博士の調査で38品種3亜種が確認され学術的に貴重な存在と認定された。1924年には名勝に指定され、花見の時期は鉄道の臨時停車場が設けられるなど、東京近郷の花見の名所として定着した。

戦後、1954年米軍の要請で五日市街道が拡張され枝や根が大幅に伐採された。その後の交通量の増大や通水停止後、堤の手入れ不

小金井公園

小金井公園のものは1940年東京府が紀元2600年記念事業という名目で砧、神代、小金井、舎人、水元、篠崎の6箇所に1箇所100ha以上という緑地を造成するとの「大緑地計画」であった。

戦後の農地開放などで取得した土地の4割を失ったが1954年都立公園として開園された。公園東側には今でも入り組んだ民有地が残る。

現在の開園面積は75.2haで日比谷公園の4.6倍上野公園の1.4倍の広さで都立公園では最大規模である。

見所は広々とした「草地広場」や野鳥観察が出来る「雑木林」、近くを流れる玉川上水「小金井サクラ」の伝統を受け継ぐ「桜の園」など。

また、江戸時代から昭和初期までの27棟の復元

石碑めぐり

この区間にある主な石碑

小金井櫻樹碑	海岸寺門前
行幸松碑	小金井橋やや上流・左岸
名勝小金井櫻碑*	小金井橋上流・左岸
名勝小金井桜碑	公園前歩道橋・右岸
川崎平右衛門供養塔	真蔵院境内
桜樹接樹碑	閔野橋やや下流・左岸
名勝境界石	境橋上流・両岸
玉川上水の碑	境橋下流・左岸
千川上水清流復活碑	境橋下流・左岸
独活の碑	うど橋上流・左岸
国木田独歩文学碑	桜橋上流・左岸
千葉胤明記念碑	桜橋下流・右岸



「さくら折るべからず」と刻まれた桜樹接樹碑 1851年建立

分水口・水汲み場跡

山家橋から小桜橋付近までの左岸を歩くと堤が波型にえぐれたり、凹凸が多いのが目に付く。これは分水口跡や水汲場、船溜などの名残りである。

明治初期の分水口改正までここには大沼田新田分水、野中新田分水、田無村分水、鈴木新田分水、閔野新田分水等の分水口が上水堤に掘られていた。

分水口は木製の樋を堤に埋め込むため、10年から20年ごとに掘り出し取替え(伏せ替え)られた。時には上流側への移設も行われた。廃止後は埋め戻された。

水汲場は上水から直接呑み水を汲み上げた場所。上水沿い各地に見られたがこの山家地区には江戸期から16箇所があった。当初は黙認されていたようであるが明治期になり汚染を理由に取り壊すよう再三指示された。1878年に5箇所が棧橋等設備を整える条件で正式に

クリシマツツジ

貫井橋から陣屋橋付近までの上水堤の兩岸にツツジの老木が目につく。

これは1914年ごろ小平・小金井両村の有志により植えられたクリシマツツジ。現在でもその多くが残り、一部見事な開花も見られるが、多くは樺などの日陰になり、サクラと同様に元気がないのが残念。

ガクアジサイ

小金井橋から閔野橋かけての上水左岸、五日市街道沿いに多くの「ガクアジサイ」が植えられている。これは衰退する小金井サクラを補うため、地元の緑の監視員が1976年に植えた。

旧小金井橋最後の雄姿

小金井橋は架替中。1930年に架けられたレンガアーチ橋は今は無い。(2007年2月撮影)



旧千川分水口跡

曙橋のやや上流左岸に1966年まで使われた千川上水分水口の分水堤やゲート巻揚機などが残されている。これよりさらに上流側にもう一箇所殆ど埋もれた分水堤と繁茂する

